



津別町長
佐藤 多一

実(巳)を 結ぶ年に

新年明けましておめでとございます。昨年を振り返りますと、景気は依然として低迷したままであり、竹島や尖閣諸島など領土問題に緊張した年でもありました。そうした中、町民の皆様におかれましては、今年こそ輝かしい新春であって欲しいと願い、新しい年をお迎えになったことと思います。今年(巳年)です。過去の巳年の出来事を振り返ってみますと、残念なことに深刻な事件が起こっています。昭和4年の世界大恐慌、昭和16年の真珠湾攻撃による日米開戦、昭和52年の有珠山噴火、平成13年の世界貿易センターへのテロ攻撃などがそうです。しかし、そうした過去に憂慮することなく、前向きに物事を考えていくべきだと思います。「見方を変

えれば、味方が変わる」というCMが流れています。このフレーズのように物事を明るく考えましょう。そうすると、「巳年は実を結ぶ年(実年)」ということになります。勿論、実を結ぶためには種を蒔き、苗を植える必要があります。では、苗床である「町は舞台、町民が主役」をテーマにつくられた「第5次総合計画」に基づき、昨年はどのような種を蒔いてきたのかといえます。

一つめは、花のまちづくりを推進するため、フラワーマスターを増員し、組織化することができました。専門家とタウン・ウオッチングを行うなど、今年はこの組織の人たちが目標をもって動き出します。

二つめは、昨年10月、台湾彰化県二水郷と友好都市を締結したことから、更なる相互交流が始まります。様々な層の交流が広がることを期待するとともに、特に子供たちには、お互いの異なる文化に触れることで、世界に目を向け、そして自国を見つめ直すきっかけにして欲しいと願っています。

三つめは、認定こども園の建設用地を丸玉産業様のご協力により、町なかに取得することができました。今年(巳年)は基本設計と実施設計ができていきます。そして、経営母

体となる社会福祉法人「夢つべつ」の設立が準備会により進められています。建設は翌年になります。こども園の建設によって伝統ある幼稚園の閉園と保育所の統合が発生します。関係者各位には、寂しさ子ども将来に対する思いが交錯していることと思いますが、次代を担う子供たちのため、皆さんと協力し合いながら子育て環境を充実させていきたいと思えます。

四つめは、空き家等の解体撤去について、所有者に対し後押しをしたいと思えます。かつて1万7千人近い人口を有した我が町は、いま、その数を3分の1に減らし、空き家・廃屋が目立つようになりました。このため、実態調査と他市町村の事例を参考に解体助成制度を検討し、まちづくり懇談会においてご意見をお聞きしたところです。これらを踏まえて制度を創設したいと思えます。

この他、昨年1月に道庁の協力を得て設立した津別町森林バイオマス利用推進協議会が、今春、「利活用構想」をまとめることとしていきます。今年も様々な種を蒔き、その成長を点検しながら、町づくりを進めて参ります。

結びに、本年が皆様にとって良い年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年 謹賀

住み続けたいと 思える まちづくりを



津別町議会議員
鹿中 順一

町民の皆様、新年明けましておめでとございます。

輝かしい新年を皆様とともに迎えられることを、心からお祝い申し上げます。

新しい年が、皆様と津別町にとって素晴らしい年になりますよう心から願っております。

昨年を振り返ってみますと、今後のはっきりとした方向性を打ち出すことができません。エネルギー問題と税と社会保障の一体改革をめぐって政局が不安定化する中、東日本大震災の復旧、復興の対応、長引くデフレ対策の遅れなどとあいまって、国民の政治不信が一層増大された年でありました。本年の日本経済の予想を見ますと、2014年から段階的に消費税増税が決定される中、2013年度後半は消費税引き上げ前の駆け込み需要の発生で、一時的には国内景気は上向くとの見方も出て

いるところでありますが、抜本的な経済の回復に向けた明るい材料を見出すことは難しい状況であり、政府による実効性のある経済対策の速やかな実施が望まれます。

本町の基幹産業であります農業は、5月上旬の降雨、降雪により植え付け作業が遅れが見られたものの、その後生育は順調に推移し、主要農作物の収量はほぼ平年並みとなったことは誠に喜ばしい限りであります。一方で、政府が参加に向けて前向きな姿勢を見せております環太平洋経済連携協定(TPP)への交渉参加は、農業が主要産業であるわが町にとって、地域の死活問題であり、断固反対し、参加阻止に向けた取り組みを強化しなければなりません。

また林産業におきましては、長期にわたるデフレからの脱却が進まない中、円高による安価な外材の輸入に押され国内産木材をめぐる情勢は引き続き厳しい状況となっております。そのような中、地産地消の新たなエネルギー資源として注目されている森林バイオマスエネルギーを有効活用した発電による地域への電力供給について、北海道の支援を受けながら検討が進められておりますが、地域における再生可能エネルギーの安定供給に向けて様々な課題が解決され、実現の運びとなることを願ってやみません。

地方自治体を取り巻く情勢は、地方分権の進展により、住民に身近な市町村の役割は一層重要になっております。これまで国が一律に決定し自治体に義務付けてきた基準、施策等を市町村が条例などで自ら決定し、実施することが出来るようになり、行政は町民の皆様と共に議論を重ね、限られた財源の中で、今後のまちづくりに向けた様々な施策の選択と集中が求められます。

私も議員は、町民の皆様のご代表として、二元代表制の一翼を担い、執行機関と互いに切磋琢磨しながら、まちづくりの主役である町民の皆様のご意見を地域課題として集約し、町政に反映させて参りたいと考えております。

本年2月末には、私も現議員の任期も満了となり、新たな議会体制を迎えることとなります。町民の皆様がこの町にずっと住み続けていきたいと思えるようなまちづくりを目指して、議員一人ひとりが町民の皆様のご負担に答えることが出来ますよう、努力して参りたいと考えておりますので、今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が町民の皆様にとって実りある年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。